

一人一人の資質・能力の育成を目指す総合的な探究の時間の在り方

－実態調査と探究のプロセスを重視した単元構想を通して－

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 池田 泰浩

1 研究の趣旨

高等学校学習指導要領改訂により、総合的な探究の時間の目標は、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する」と改訂され、学習内容や学習指導の改善と充実に向けて、以下の二点が明示された。

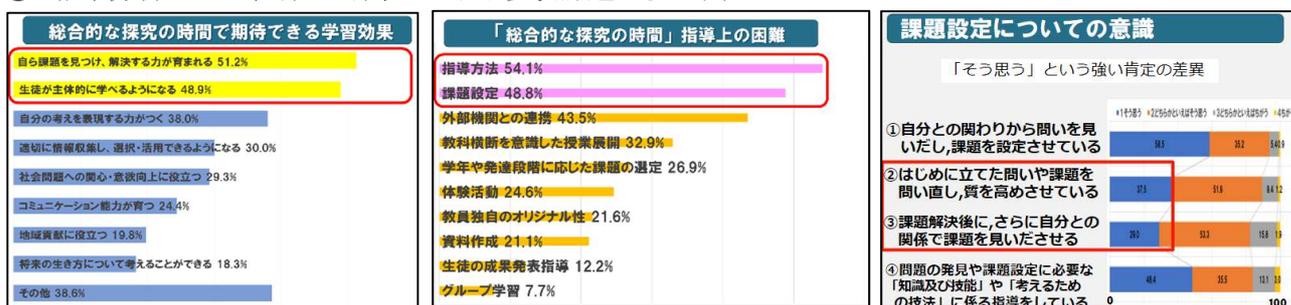
- 総合的な探究の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方の充実・改善
- 総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力の設定

そこで、本研究では、小・中学校の総合的な学習の時間における生徒の学びを踏まえた上で、本県の実態に即して、課題設定を重点とした探究のプロセスに焦点を当てて研究を進めていることとした。総合的な探究の時間の推進のために、県内の取組状況を把握するとともに、研究協力校における実践事例を基に、高等学校で目指す「一人一人の資質・能力の育成につながる総合的な探究の時間の在り方」を提案し、発信していく。

2 研究の概要

(1) 総合的な探究の時間についての意識調査の実施と結果分析

- ① 調査対象・・・県内の県立高校全教職員
- ② 回答方法（期間）・・・Webによる入力形式（7月上旬から7月中旬まで）
- ③ 調査内容・・・総合的な探究の時間の実施状況、4つの探究のプロセスにおける意識調査
- ④ 結果分析・・・総探の時間における現状課題の洗い出し



(2) 研究協力校における探究プロセスの構築

- ① 福島北高校での実践「課題設定を重視した単元構想により、問いの高度化を促す」
「問いの導出→問いの共有→問いの吟味→問いの精選」という4つのステップで「問い」そのものを探究し、課題の高度化を図る。それぞれのプロセスの特性に応じた思考ツール等の活用により、問いの高度化と課題設定能力の向上を目指す。
- ② 川俣高校での実践「小単元を複数組み込んだ単元構想により、問いの自律化を促す」
小単元で身に付けた課題設定に必要な知識及び技能等を次の小単元で活用し、生徒が自分との関係で課題を設定し、自己の在り方生き方を考えながら、地域の課題を解決できるよう支援する。そのことにより、問いの自律化と課題設定能力の向上を目指す。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 4つの探究のプロセスの指導に係る教材、特に、課題設定に関する具体的指導資料を作成することができた。今後は、リーフレットにまとめ、Web発信する。

(2) 今後の課題

- 育成を目指す資質能力は、各学校によって異なるため、学校経営・運営ビジョンに照らし合わせ、カリキュラム・マネジメントの視点から明確にしていく必要がある。今後、そのための留意点を整理していきたい。